



資料3
堅牢地神曼荼羅軸



資料2
家内安穩祈願曼荼羅軸



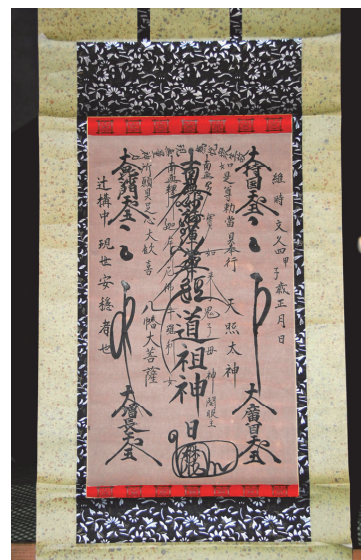
資料1
山王大明神板碑型塔



資料6
清正公大神祇図軸



資料5
富士日蓮聖人図軸



資料4
道祖神曼荼羅軸



資料8
甲子講霊供膳及び収納
木箱



資料7
大黒天図軸収納木箱



資料7
大黒天図軸



資料 1 1
社殿再建曼荼羅棟札



資料 1 0
身延山堂宇縁起軸収納
木箱



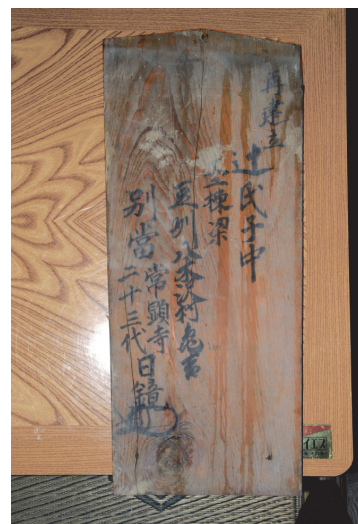
資料 9
庵室修復書軸



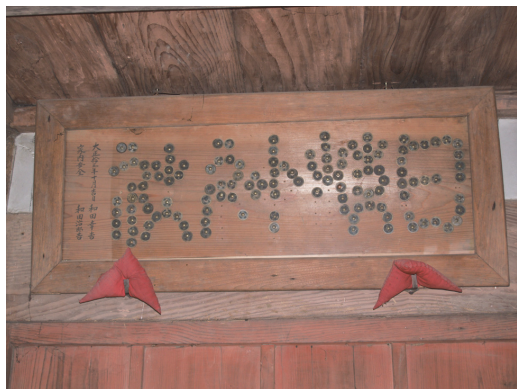
資料 1 2
同資料裏面



資料 1 2
社殿改築上棟曼荼羅棟
札



資料 1 1
同資料裏面



資料 1 4
銭貼社号額



資料 1 3
同資料裏面



資料 1 3
開運祈願木札



資料 1 7
木杵及びびい



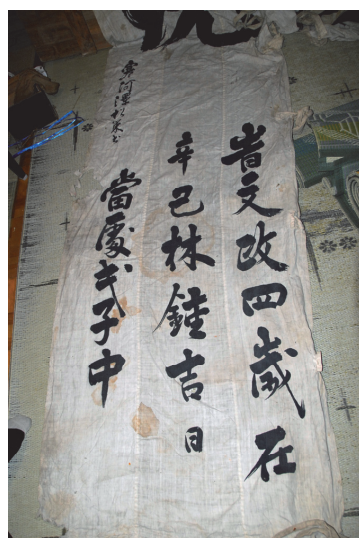
資料 1 6
うちわ太鼓及び収納木箱



資料 1 5
太鼓及び太鼓台



資料 1 9
幔幕収納木箱



資料 1 8
同資料 年号銘



資料 1 8
山王大権現幟



資料 2 2
(その一) 四角型花立



資料 2 1
四角型線香立



資料 2 0
軸収納木箱



(上) 資料 2 3 社殿修繕寄附連名板
(下) 資料 2 4 社殿屋根新築寄附連名板



資料 2 2
(その二) 円筒型花立



日枝神社全景



資料 2 5
道祖神

萩園日枝神社所蔵の文化財

平野文明^③

はじめに

萩園の字辻西にある日枝神社には庚申塔がご神体として祭られている。この庚申塔について写真撮影、計測などを行うために役員の方々の案内で建物の中にはいったところ、様々な祭祀用具があった。そこで、役員の方々の立ち会いのもとにこれらも記録することとした。信仰の対象となつてゐるものもあり、その扱いには特別の配慮が必要であるが、郷土の貴重な文化財としての価値が高いため、日枝神社の別当寺である常願寺と日枝神社役員の方々の承諾を得てここに記すこととする。

調査の日時 平成二十一年七月八日

調査の場所 萩園 辻西二三四〇番地 日枝神社社殿内及び境内

参加者 日蓮宗本立山常願寺住職森田海玄氏

日枝神社関係者 故和田一雄氏、和田治彦氏

常願寺関係者 宮川元二氏

民俗行事部会会員 飯岡英仁、池田卓郎、江頭智子、

加藤幸一、金子栄司、熊澤克躬、

坂井源一、樋田豊宏、平野文明

平成二十二年一月十一日、常願寺住職森田海玄氏、同寺関係者の和田治彦、宮川元二、中戸川正博、加藤明宏各氏と平野が常願寺において今回取り上げた個々の資料を検討した。

これらのことを踏まえて本報告の執筆は平野が行った。また調査時の写真撮影と修整は主に坂井源一が行った。なお執筆するにあたり、判読出来なかつ

た文字は、一字の場合は□とし、確証が持てない字は「」で囲い、それが数文字の場合は「」とした。／は改行を表わし、◎以下の文章は個々の資料についての注記である。髭題目はその旨を記した。また、異体字、略字は一部を除き普通の活字になおした。

調査の結果

日枝神社は通称「山王さま」と呼ばれ、萩園の辻地区の方々が題目講中を結成して守つてきた。毎月十二日に女性が集まりお題目をあげている。記録した祭具、什器の類は次のとおりである。

一 石造寛文二年銘山王大明神板碑型塔 (一六六二)

寛文二年壬寅十一月吉日

「」月吉日

南無妙法蓮華經(髭題目) 山王大明神

(目をふさぐ猿像)

施主辻(ママ)村 惣旦方中

(耳をふさぐ猿像)

常願寺日鏡

白敬

(口をふさぐ猿像)

◎日枝神社のご神体として常願寺が関与し建造された塔。日吉山王信仰―庚申信仰―日蓮宗の関係を伺わせる数少ない事例の一つ。年号銘が二行あるが不完全な方は削り忘れだろうか。筆は延宝五年(一六七七)卒去の常願寺十一世圓隆院日鏡上人。

二 明和五年銘題目講中家内安穩祈願曼荼羅軸 (一七六八)

題目講中家内安穩現當願「満」之本尊也

南無多寶如來

南無妙法蓮華經（髭題目） 南無日蓮大菩薩 日元（花押）

南無釋迦牟尼佛

明和五龍集戊子首夏如意珠日

◎辻の題目講中の本尊として資料一の石塔に加えてつくられた曼荼羅。日枝神社の祭礼時（七月十六日）に掛けていたという。筆は天明三年（一七八三）卒去の十七世通妙院日上上人。

三 明和七年銘堅牢地神曼荼羅軸（一七七〇）

今此三界皆是我有其中衆生悉是吾子 明和七歳在庚寅

南無多寶如來

萩園辻（ママ）講中

南無妙法蓮華經（髭題目） 地神堅牢善女天

南無釋迦牟尼佛

謹合十奉祭

而今此處多諸患難唯我一人能爲救護 孟秋摩訶吉祥日

（軸裏銘） 地神／昭和十一年十一月吉祥

◎筆者銘がないが、文字が資料二の筆法に似ている。特に髭題目にその特徴があらわれていると常願寺住職森田氏の指摘があった。両資料はつくられた年代も近いことから、筆は日上上人としてよいと思われる。「今此三界…」[而今此處…]は法華經比喻品第三中の偈の一部。資料九にもでてくる。資料三、四、五、六は軸裏に「昭和十一年十一月」とあり、同時に表装されている。傷みのための再表装と思われる。なお「謹合十奉祭」の意味が分からない。

四 文久四年銘道祖神曼荼羅軸（一八六四）

維時文久四甲子歳正月日

大持国天王 ウーン（不動明王種字） 大廣目天王

如是尊勅當具奉行 天照太神

南無多寶如來 鬼子母神

爲悦衆生故

開眼主

南無妙法蓮華經（髭題目） 道祖神 日梵（花押）

現無量神力

南無釋迦牟尼佛 十羅刹女

所願具足心大歡喜 八幡大菩薩

大毘沙門天王 カーン（愛染明王種字） 大増長天王

辻講中現世安穩者也

（軸裏銘） 道祖神／昭和十一年十一月吉祥

◎「如是・・・」は法華經囑累品第二内の文言。「爲悦衆生故 現無量神力」は同經如來神力品第二にある偈の一部。「所願・・・」は法華經授學無學人記品第九内の文言。資料一三のその一、二にも同じ文言がある。資料三とともに、辻町内が題目講（身延講）の他に地神の講中でもあり道祖神の祭祀集団でもあることを表わす資料。資料三を前例としてつくられたものであろう。書は明治三十八年（一九〇五）卒去の二十五世海音院日梵上人。

五 天保十年銘木版富士日蓮聖人図軸（一八三九）

（山頂の塔に 木版）

一天四海／南無妙法蓮華經（髭題目）／皆帰妙法

（富士山に重ねて 木版）

中宮 毘沙門天／清正公／一合 七面大明神／二合 八幡大菩薩／三合 天

照太神／四合 鬼子母神／五合 「得」大勢至菩薩／六合 普賢菩薩／七合

文殊菩薩／八合 摩利支天／九合 妙見大菩薩／御頂上 浅間大王／釋迦

牟尼佛／帝釈天王

(日蓮聖人木版図の右に 木版) 駿州富士山東口／安國日蓮大菩薩

(日蓮聖人木版図の左に 木版) 絶頂經ヶ嶽／開會堂

(軸右端に 墨書) 天保十歳巳(ママ)亥七月如意日

(軸左端に 墨書) 萩園村辻(ママ)町身延講中所願「圓」満守護者也

(軸下端 墨書) 開眼主／日観(花押)

(軸裏銘) 富士／日蓮大菩薩／昭和十一年子十一月吉祥

◎天保十年に、辻の題目講中が所願円満を祈願して受けてきた木版絵像。
「富士山東口」とあるが発行所は分からない。

六 天保十年銘木版清正公大神祇図軸 (一八三九)

(軸上段に 墨書カ) 如来秘密／清正公大神祇／神通之力

(軸中段に木版の富士山図)

(軸下段に木版の清正公図)

(清正公図の下に) 東口中宮

(軸右端に 墨書) 天保十歳巳(ママ)亥七月吉令辰 開眼主 日観(花押)

(軸左端に 墨書) 萩園村辻(ママ)町身延講中信心力増進守護

(軸裏銘) 昭和十一年子十一月吉祥

◎資料五と同じ年銘をもつ加藤清正の木版絵像。署名花押の「日観」も資料五のそれと同じであるから、両資料の発行所は同じと考えられるがどこかは不明である。題目講中がこの年、「富士山東口」方面に参拝の旅を行い、一緒に受けてきたのだろう。

七 身延三光堂木版大黒天図軸及び収納木箱(年銘欠)

(軸上部に 木版) 法華名者／大黒天神／福不可量

(軸中央部に木版大黒天図と朱の角印)「御影／替判主」

(軸下部に 木版) 賜紫身延／五十八代／日「環」(花押)

(軸の左右端に木版) 身延上之山／三光堂

(箱内側に 墨書) 大黒天 一幅 辻(ママ)町 甲子講中

◎身延山の三光堂から受けてきた大黒天の絵像を表装した軸。現在も三光堂は身延山中にあり、そばには日蓮聖人直作と伝える大黒天をまつる大黒堂もある。「法華名者 福不可量」は法華經陀羅尼品第二六にある。辻題目講中は大黒天をまつるときは甲子講中と称した。資料八は講の祭りのとき大黒天に供物を盛る霊供膳で、箱に天保十三年の銘がある。資料七は年銘を欠くが霊供膳にある天保十三年(一八四二)をさほど遡らないときに入手したものであろう。

八 天保十三年銘甲子講霊供膳及び収納木箱(一八四二)

(収納箱の蓋裏銘) 大黒天／霊膳入／辻(ママ)町甲子講中

(収納箱の裏底銘) 天保十三寅歳三月／大黒天／霊膳箱

辻(ママ)町／甲子講中／本願主「門」

◎収納箱に足付霊供膳一客と平杯、蓋付の飯椀、汁椀、壺、平の塗物が納められている。どういう理由によるものかわからないが本願主名は墨で塗りつぶしてある。

九 木版庵室修復書軸（年銘欠）

（軸の上段に添付 木版）

今此三界皆是我有其中衆生悉是吾子／南無妙法蓮華經（髭題目）開祖日蓮大菩薩／而今此處多諸患難唯我一人能爲救護

（軸の下段に添付 木版）

去文永十一年六月十七日にこの／山の奈（な）か尔（に）きをうちき里（り）てかり／曾（そ）めに庵しつを川（つ）く里て候しか／やうやく四年かほと者（は）しら久（く）ち／かきかへをち候へと毛（も）奈（な）をす事／奈（な）くてよるひをと毛さねと毛（も）／月のひかり尔（に）て聖教をよミ／まいらせわれと御経をまきまいらせ／候ハねと毛（も）風を乃（の）川（つ）からふき／かへしまいらせ候しか今年ハ／十二の者（は）しら四方尔（に）かふへを奈（な）け／四方のかへハ一曾（そ）尔（に）に堂（た）うれぬう／堂（だ）いた毛ちか堂（た）けれ八月ハ／すめ安（あ）免（め）ハと、まれと者（は）けミ／候川（つ）る本（ほ）と尔（に）人夫奈く志（し）て／かく志（し）やうと毛（も）をせめ食奈（な）く志（し）て／ゆきを毛（も）ちて命を堂（た）すけて候／ところ尔（に）さきにうへ乃とのよ里／い毛（も）二堂（だ）これ一堂（だ）ハ堂（た）まに毛（も）すき

◎（ ）は筆者の注記。発行所も発行年もわからないが、上段添付の曼荼羅に「開祖」とあるから発行は身延山久遠寺かもしれない。日蓮聖人は文永十一年（一二七四）五月初めて身延山西谷に入山し、同年六月十七日、久遠寺の元となる草庵を立てた。下段の木版はこの草庵がいたんでいる様を伝える日蓮聖人の遺文を印刷したもの。

一〇 明治十一年銘身延山堂宇縁記軸収納木箱（二八七八）

（箱底銘）身延山堂宇縁記（ママ） 壱幅 明治十一年八月

（蓋裏銘）明治十一年寅八月日 萩園邨辻（ママ）町安全

◎資料九を納める箱と考えられるが確認できていない。資料九を久遠寺の縁起としてこの箱に収めているのではないだろうか。そうすると、資料九は、題目講中が明治十一年に身延山久遠寺から受けてきたものと考えることができる。

一一 安政四年銘社殿再建曼荼羅棟札（二八五七）

安政四丁己（ママ）年十一月吉辰

大持国天王 ウーン（不動明王種字） 大廣目天王

南無無邊行菩薩 阿修羅王 天台大師

南無上行菩薩 大梵帝釈天王 天照太（ママ）神

南無多寶如来 南無文殊普賢菩薩 鬼子母神

南無妙法蓮華經（髭題目） 山王大明神鎮座

南無釋迦牟尼佛 南無弥勒葉王菩薩 十羅刹女

南無淨行菩薩 大日月明星大王 八幡大菩薩

南無安「立」行菩薩 八大龍王 傳教大師

大毘沙門天王 カーン（愛染明王種字） 增長天王

（裏銘）

再建立／辻（ママ）氏子中／大工棟梁／豆州八木沢村亀吉／別當 常顯寺二

十三代 日鏡（花押）

◎筆は文久元年（一八六一）卒去の二十三世觀隆院日鏡上人。

一二 明治三十四年銘社殿改築上棟曼荼羅棟札（一九〇二）

明治参拾四年拾月大吉辰上棟

大持国天王 ウーン（不動明王種字） 大廣目天王

南無上行無邊行菩薩

提婆達多阿□□□ 天台傳教大師 □□□弘□

南無多寶如來 大梵天□釋提恒因 天照大神 大漫（ママ）茶羅□

南無文殊普賢菩薩 鬼子母神 本立山廿七世

南無妙法蓮華經（髭題目）奉勸請勸三（ママ）王大明神鎮座 日隆（花押）

南無釋迦牟尼佛 南無舍利佛目蓮尊者 十羅刹女

南無淨行安立行菩薩 大日月明星天王 正八幡大菩薩

八大龍王 大導師日蓮大菩薩

大毘沙門天王 カーン（愛染明王種字） 大増長天王

授與辻（ママ）旦方中者也

（裏銘）

改築工事世話人 和田直吉／加藤豊太郎／加藤政吉／和田文蔵／大工 和田

松五郎／屋根職 和田喜平次

◎資料一は再建、本資料は改築時の棟札。本資料の筆は昭和二十三年（一九四八）卒去の遠唱院日隆上人。本人は二十七世を唱えていたが、寺の調べでは二十八世になるという。

一三 開運祈願木札（年銘欠）

その一

諸餘怨敵皆悉摧滅

奉開帳開運日蓮大菩薩擁護攸 龍口

所願具足心大歡喜

（裏銘）ウーン（不動明王種字）カーン（愛染明王種字）
その二

所願具足

奉開帳開運日蓮大菩薩擁護攸 龍口

心大歡喜

（裏銘）ウーン（不動明王種字）カーン（愛染明王種字）

◎「諸餘・」は法華經藥王菩薩本事品第二三中の文言。「龍口」とあるから片瀬、腰越付近のいずれかの日蓮宗寺院の開帳祭で、開運を祈って受けてきた木札であろう。「所願・」は資料四のとおり。

一四 大正十三年銘銭貼社号額（一九二四）

日枝神社

大正拾三年十月吉日 和田幸吉

家内安全 和田治郎吉

◎寛永通寶などを貼り付けて文字とし、社号を表わしてある。

一五 太鼓及び文久三年銘太鼓台（一八六三）

（太鼓台の足裏銘）

（向かって右足裏）文久三癸亥年／正月吉日

（向かって左足裏）山王宮社什／萩園村辻（ママ）町

一六 うちわ太鼓及び収納木箱（年銘欠）

（収納箱蓋裏銘） 太鼓匣

◎うちわ太鼓が六枚収納されている。各太鼓には寄進者の名がある。

一七 昭和九年銘木柁及びばい（一九三四）

（木柁裏銘）

昭和九年六月二十二日 平塚市本宿拾八軒町 大工職粉川長吉納

一八 文政四年銘山王大権現幟（対）（二八二二）

皆文政四歳在

奉納山王大権現

辛己（ママ）林鐘吉日

當處氏子中

〔寒〕河澤松〔榮〕書

◎長さ一〇メートル、横幅一メートル。

一九 昭和六年銘幔幕及び明治三十六年銘収納木箱（一九三二）（一九〇三）

（幔幕銘）昭和六年／辛未一月吉日／（宗紋）／奉／納／（宗紋）

（箱蓋裏銘） 維時明治三拾有六卯歳壹月／日枝大神幔幕匣／高座郡鶴嶺村

萩園辻（ママ）氏子中

二〇 軸収納木箱（年銘欠）

（蓋裏銘） 萩園村辻町身延講中

◎「身延講中」の墨書のある資料五と六を収納するものだろう。

二一 石造四角型線香立（年銘欠）

（正面の銘）

奉納

二二 石造花立（年銘欠）

その一（四角型 正面の銘） 奉納

その二（円筒型 正面の銘） 奉納

◎資料二一とともに山王大明神板碑型塔の前に置かれている。

二三 昭和十一年銘社殿修繕寄附連名板（一九三六）

（右から左へ連記してある。）

日枝社修善（ママ）寄附連名／奉納／一座布團拾枚 茅ヶ崎海岸 十文字加
祢子／奉納／一金貳圓 神奈川 小澤□□子／奉納／一小桶バケツ其他 横
浜 加藤□代子／一座布團拾五枚 町内講中／一金拾圓 和田清／一金壹圓
和田文藏／一金五錢 和田金藏／一金拾錢 和田梅吉／一金五拾錢 福村
齊輔／一金拾錢 福村忠雄／一金貳拾錢 佐藤利貞／一金拾錢 和田治良吉

／一金七拾錢 加藤光太郎／一金拾錢 加藤友太郎／一金拾錢 和田喜代治
／一金貳拾錢 和田「唯」助／一金貳拾錢 三留岩吉／一金五拾錢 和田鋪
(ママ)／一金參拾錢 和田爲八／一金八拾錢 加藤壹太郎／一金壹圓參拾
錢 和田八太郎／一金五拾錢 福村福松／一金貳圓 福村新太郎／一金拾錢
小嶋春吉／一金拾錢 齊藤保／一金壹圓 和田盛雄／昭和十一年一月吉日

二四 昭和三十年銘社殿屋根新築寄附連名板(一九五五)

(右から左へ連記してある。)

日枝神社屋根／新築寄附連名／一金參阡円也 和田久徳／一金參阡円也 福
村善助／一金參阡円也 加藤光太郎／一金參阡円也 和田篤次／一金參阡円
也 三留岩雄／一金參阡円也 加藤正隆／一金參阡円也 和田信彦／一金參
阡円也 加藤源太郎／一金參阡円也 和田邦伸／一金參阡円也 福村喜久／
一金參阡円也 野崎祐三／一金參阡円也 鳥井為吉／一金貳阡円也 和田文
治／一金貳阡五百円也 佐藤利貞／一金貳阡五百円也 和田夷太郎／一金貳
阡円也 村上竹次郎／一金貳阡円也 和田盛雄／一金貳阡円也 福村忠雄／
一金貳阡円也 和田義源／一金貳阡円也 和田喜代治／一金貳阡円也 鈴木
四郎／一金貳阡円也 和田重盛／一金貳阡円也 福村新太郎／一金貳阡円也
小又清／一金貳阡円也 竹之内傳吉／一金壹阡五百円也 小島誠／一金壹
阡円也 磯尾寅之助／一金壹阡円也 井出精一／一金壹阡円也 石山清／一
金壹阡円也 中村重興／一金壹阡円也 五十嵐健吉／一金壹阡円也 加藤寅
雄／一金壹阡円也 和田節／一金八百円也 小島謁司／一金七百円也 大木
銀次郎／一金五百円也 齊藤ナミ／一金五百円也 瀧沢清道／一金五百円也
井上一彦／一金五百円也 平野角三／一金參百円也 梶原選／一金貳百円
也 小林安次／一金五百円也 財部孝／世話人 和田篤次／ 全 三留岩雄
／賛助人 和田邦伸／昭和三十拾年五月吉日

二五 天保十三年銘石造道祖神 (一八四二)

(右側面銘) 南無妙法蓮華經(髭題目)

(正面銘) 道祖神

(左側面銘) 天保十三年壬寅稔／極月吉良辰／氏子中

◎境内の一画にまつられている。

まとめ

最後に、資料を年代順に並べて、日枝神社の略史を述べてまとめとする。

寛文二年(一六六二)

常願寺十一世日鏡上人の代、山王大明神板碑型
塔が立つ。日枝神社の始まり。

明和五年(一七六八)

常願寺十七世日元上人の書になる題目講中家内
安穩祈願の曼荼羅ができる。

明和七年(一七七〇)

堅牢地神の曼荼羅ができる。おそらく十七世日
元上人の書と思われる。

文政四年(一八二一)

山王大権現幟(対)ができる。

天保十年(一八三九)

日枝神社の身延講中が富士山東口近辺の社寺に
登拝し、木版富士日蓮聖人図と木版清正公大神
祇図を受けてくる。

天保十三年(一八四二)

石造道祖神が立つ。

同年

甲子講の靈供膳と収納木箱ができる。講を行うとき掛ける身延三光堂発行の木版大黒天図軸（年銘欠）もあるから、甲子講は、天保十三年をさして遡らない時期にこの軸を受けてきて始められたものと思われる。

安政四年（一八五七）

常願寺二十三世日鏡上人の代、社殿が再建される。

文久三年（一八六三）

太鼓の台ができる。太鼓及びうちわ太鼓収納木箱もあり同時につくられたのだろうか。

文久四年（一八六四）

常願寺二十五世日梵上人の書になる道祖神の曼荼羅ができる。

明治十一年（一八七八）

願目講中が身延山久遠寺を参拝し、木版の庵室修復書を久遠寺の縁起として受けてきたと思われる。

明治三十四年（一九〇二）

常願寺二十八世日隆上人の代、社殿が改築される。

明治三十六年（一九〇三）

幔幕ができる。現在の幔幕は昭和六年（一九三一）につくられている。

大正十三年（一九二四）

和田幸吉、和田治郎吉両氏により銭貼社号額が奉納される。

昭和六年（一九三一）

幔幕ができる。

昭和九年（一九三四）

平塚市本宿町の大工、粉川長吉作の木柱が納入される。

昭和十一年（一九三六）

社殿が修繕される。また、地神曼荼羅軸、富士日蓮聖人図軸、清正公図軸、道祖神曼荼羅軸の表装が改められる。

昭和三十年（一九五五）

社殿の屋根が改められる。

萩園日枝神社の文化財を調査し、結果をまとめるにあたって常願寺及び日枝神社の関係者の方々にはたいへんお世話になりました。筆を置くに際し篤くお礼を申し上げます。

* 文化資料館と活動する会（民俗行事部会）